

「本と触れ合う時間」

後期図書委員長 5年4組 赤松 謙心

情報社会となり、様々な形で調べ物ができる現代において、本はどのような役割を持っているのでしょうか。私は、主に三つの役割を本が担ってくれていると思います。

まず一つ目は、「娯楽」としての役割です。最近では、既存の小説だけでなく、ライトノベルもこの役目に大きく貢献しています。小説は大衆性を持っています。物語として、面白みを保ちつつも、多くの人を読めるように専門性の高すぎる内容は取り扱わなかったり、難しい言葉を他の表現で分かりやすく読者に説明したりしてくれています。近代化し、大衆化、グローバル化が進んだ現代では、大衆性がある小説は、多くの人々の娯楽として楽しまれているでしょう。また、その小説が原作となり、映画化、舞台化されるなど、さらに多くの人を楽しませてくれています。

二つ目は、情報媒体としての役割です。皆さんが、総合的な学習探究の時間、GAなどで調べ物をするとき、真っ先に思いつく手段は、本とインターネットではないでしょうか。本は持ち運びが不便だったり、探すのが大変だったりするという不便な点がありますが、それに負けない利点もあります。それは何といても「情報の確かさ」です。インターネットでは、様々な人が、比較的気軽に情報を発信することができるので、その人の主観や物の見方に大きく影響されます。真相ではない情報が紹介されているかもしれません。「情報の信ぴょう性」という意味では、本の方が安心して調べられるのではないかと思います。また、情報の量や質も利点の一つです。一冊の本が持つ情報量は、膨大ですし、内容の出典先（参考文献）も明らかにされている場合がほとんどです。

三つ目は、形あるものとしての役割です。皆さんには思い出の品と呼べるものがいくつかあるでしょうが、本もその一つになり得ます。紙の本は、電子書籍やネット上の情報と違って、装丁や手触り、印刷のにおいや本の厚さ（重さ）など、直接自分で感じるすることができます。だから、読んだ時の自分の環境や思いが、記憶に残りやすいと思います。

最近では、多くの人々がスマホやタブレットを持ち、調べ物も娯楽も一台で終わることが出来ます。しかし、アナログな物にはその物なりの良さもあります。ネットに触れる時間を少し、本に触れる時間に替えてみませんか。

☆ 貸出し冊数 2.9 冊 ☆

6月末までの一人あたりの平均貸出し冊数です。昨年度は、3.3冊でしたので、昨年度と比べると、ちょっと少ないかな？ ちなみに、前期生は、3.5冊、後期生は、2.3冊でした。

そして、すでに「年間目標貸出数6冊」を達成している学級もあります。

3年2組 11.6冊 4年1組 8.8冊 なんと、素晴らしい！！

9月には、読書冊数調査を行います。何冊になるか、楽しみにしています。

～7月の新刊紹介～

- 『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井光 【著】
- 『くもをさがす』 西加奈子 【著】
- 『月曜日の抹茶カフェ』 青山美智子 【著】
- 『透明な夜の香り』 千早茜 【著】
- 『法廷遊戯』 五十嵐律人 【著】
- 『迷犬マジック3』 山本甲士 【著】
- 『アナログ』 ビートたけし 【著】

(この他、6月号で紹介した課題図書も終業式までには、届く予定です。)

図書委員オススメの本



『本と鍵の季節』 **米澤穂信【著】** 4年4組 山下葵

この本は図書委員の男子高校生の二人が図書室に持ち込まれる謎に挑む話です。ただ、二人の性格は全く違います。主人公の堀川次郎は、嘘の根底には真実があるものと信じていますが、もう一人の松倉詩門は、自分に笑顔で近づいてくる者は、すべて疑ってかかっています。二人の性格が全く違うからこそ、謎に対する見方も違っていて、結末が変わって見えることが魅力だと思います。

夏休みの開館について

- ☆開館日 7月21日(金)～7月31日(月)
(但し、木・土・日は閉館します。)
- ☆開館時間 11:30～16:30
- ☆貸出しについて 貸出しの方法は通常と同じ、一人3冊までです。
夏休み中は、貸出しが1週間を越えてもかまいません。
- ☆本の返却日 借りている本は、2学期の始業式(8月25日(金))
に返却してください。

